

## 第 87 回 GAORA 番組審議会記録(2024 年 12 月開催)

第 87 回番組審議会が 12 月 9 日(月)に開催され、対象番組について審議を行い、委員の皆様から以下のご意見をいただきました。

### <対象番組> マッスル アイランド DRAGONGATE 25 周年特別番組

[前編]2024 年 8 月 23 日(金)22:30~23:30

[後編]2024 年 9 月 3 日(火)22:30~23:30

### <番組概要>

団体を代表する人気 6 選手が、兵庫県・淡路島に集合し、特別な 2 日間の夏休みを過ごします。夏にぴったりのウォーターアクティビティ・SUP(サップ)やビーチフラッグ、すいか割りなどで大盛り上がり。リング上では見られない、夏を楽しむ選手たちの姿や、はじける笑顔は必見です。

また、同期選手やベテラン選手の対談もお届け。夜の BBQ では苦楽を共にしてきた仲間だからこそその本音トークが繰り広げられます。また番組では過去の名シーンや人気ユニットの変遷など、団体が築き上げてきた 25 年の歴史も振り返ります。

### <委員長総括>

■総じて温かい評価の番組であった。視聴者への説明を番組内でどこまでするかは、ターゲットをどこに置か次第で、CS 放送の番組としては制作上ある種の割り切りが必要であろう。本番組は、制作担当者の DRAGONGATE への愛が溢れていて、それがよく伝わってきた。愛があればこそ魅せる番組作りに繋がっていくと思うので、この点を高く評価したい。今後も継続して、愛をもった魅せる番組作りに努めていただきたい。

### <審議意見> 委員の主な意見は次の通り

■プロレスとしてではなく、バラエティー番組として興味をもった。出演レスラーの人間性を垣間見ることができ、ファンにとってはリング上では分からない発見があったのではないかと。そして、各レスラーの魅力が更に増したと思う。また、一人一人の話や思いを聞くことができ、この世界に飛び込んできた理由や目的がよく伝わってきた。注文をつけるとすると、過去の名シーンやユニットの遍歴についてはもう少し説明が欲しかった。また、ヒール役のシュン・スカイウォーカーの唐突な登場場面と斎藤GMの出演が果たして必要だったのか疑問が残った。

■番組を通して選手同士の仲の良さやプロレスへの真面目な向き合い、そして何よりピュアな人間性がよく伝わってきた。こちらが勝手に抱いていたレスラーのイメージとのギャップが新鮮であった。また、番組内では練習風景はなかったものの、体つきや筋肉の付き方から、普段から相当鍛えていることが想像できた。選手の過去の振り返りのところ、コメントだけではなく過去の写真や素材があったら尚よかったのではないかと。そして、歴史についての説明があれば、より深みが増したと思う。

■ファンにとってはリング上でみられない姿に触れられる番組であった。選手任せの進行だったので、ややダラダラした感じが否めなかった。DRAGONGATE の知識がない立場で視聴したこともあり、二人のトーク場面では、その関係性を含めて付いていけなかったのが率直なところ。何らかの選手紹介や補足説明があればよかったのではないかな。

■映像は綺麗でリゾート感が出ていた。ビーチフラッグはさすが動きが俊敏で格好よさが伝わってきたが、サップは腰が引けていてそのギャップがおかしかった。同期や世代ごと、ベテラン同士に分かれた二人のトークは、普段考えている本音や悩みが聞け、いい対談になっていた。各レスラーの意識が高く、プロレスへの熱い思いがよく伝わってきた。特にエンドトークのところ、選手の純粹で素直に姿勢が感じられ、応援したいと思った。

一方、プロレスファン以外の視聴者にとっては、バラエティー要素が少なく、トークが朴とつとしていて物足りなさを感じたのではないかな。また、水着プレゼントは、直接肌に着けていたものなので、このご時世大丈夫なのかと心配になった。

■プロレスは、微妙なスポーツであり、娯楽であり、成熟したビジネスである。メディアが上手く整理して提示するのは難しいところ、今回はトークありのバラエティー番組ということで関心をもって視聴した。注目したのは、YAMATO とドラゴン・キッドの対話のところ。YAMATO が何かを表現しようと言葉を紡ぎ出す姿に魅力を感じ、「プロレスはもはや時代遅れのジャンルになった。」というキーワードに大変共感を持った。その続きの語りをもっと聞きたかった。プロレス文化を支える職人肌な YAMATO と経営者視点のドラゴン・キッドとの思いのぶつかりが、会話に象徴されていて興味深かった。もう一点、プロレスには、選手の肉体美、マッチョさを売りに人を惹き付ける文化があり、昨今の『推し活文化』に通じるビジネスの方向性、可能性を感じとれた。

■6 選手のコメントを含め番組全体に、DRAGONGATE を何とかしないといけないという強い思いが溢れていた。特に選手のトーク力の素晴らしさが伝わってきて感服した。ギスギスした社会だからこそ、「愛らしさ」、「仲の良さ」がキーになって若い女性がそれに魅力を感じ、人気が集まる理由になっているのだと思う。今後、ファンの裾野を広げるためにも、「団体のファミリー感」と「選手同士の仲の良さ」を維持して更に膨らませてほしい。

最後に各選手からコメントがあった後に GM が登場して改めて締めようとしたところは、進行に工夫があってもよかったのではないかな。また、プロレス慣れしたファンに対しては、何か緊張感を与えるもの、新しい要素を加えることも必要なのであろう。

#### [審議委員]

種子田穰委員長、影山貴彦副委員長、黒田勇委員、藤井純一委員、沢松奈生子委員、森本志磨子委員、石塚徹委員（以上7名）

以上、GAORA では、委員の皆様の貴重なご意見を、より良い番組をお届けしていくために活用させていただきます。